1．AEGIS-Women・ヘルニア学会合同シンポジウム開催のご報告

国際医療福祉大学熱海病院　消化器外科　高村　卓志先生

2025年5月23日、第23回日本ヘルニア学会学術集会において、初の試みとしてAEGIS-Women とヘルニア学会の合同シンポジウムを開催いたしました。「多様性が拓くヘルニア診療の新時代～女性外科医のキャリアを再考する～」というテーマで、座長の和田則仁先生（神戸大学）、滝田純子先生（国立病院機構宇都宮病院）のもと、活発な議論が交わされました。AEGIS-Women 会長の河野恵美子先生（大阪医科薬科大学）による団体紹介があり、前会長の野村幸代先生（星薬科大学）からは、若手女性医師が増える一方で女性のリーダーが少ない現状と課題が示されました。また、蛭川浩史先生（立川綜合病院）や私、高村も含め各演者が、外科医としてのキャリア継続と育児との両立において、ヘルニア診療が果たしうる役割について提言しました。多様な働き方を支え合う環境が、ヘルニア外科領域の未来を豊かにするというメッセージが共有された有意義な会でした。

今回の合同シンポジウムを契機に始まった両会の連携が、ヘルニア外科、ひいては外科領域全体の未来をより明るいものにすると確信しています。

2.「医学論文の読み方」に関するオンライン講座のご報告

日本バプテスト病院　外科　大越　香江先生

2025年5月16日、mMEDICI 株式会社 CEO の廣瀬直紀さんをお招きし、医学論文の読み方に関するオンライン講座を開催しました。当日は副会長の大越が司会を務め、その概要をまとめましたのでご報告します。

なぜ論文の読み方を学ぶのか？

医師であっても論文の正しい読み方を教わる機会が少ないのではないでしょうか。論文が読めない理由は、「ルール（疫学・統計学）を知らない」ことと、「論文の構成、つまり『型』を知らない」ことの2点です。この講座では、後者の「型」に焦点を当てて解説いただきました。

論文の基本構造（型）

医学論文は明確な「型」に沿って書かれています。この型を理解すれば、内容を予測しながら効率的に読み進めることができます。

- Title: 研究デザイン、対象、介入、アウトカムといった研究の全体像が凝縮されています。
- Introduction: 論文の面白さや新規性をアピールするセクションです。「背景」「既知の事実」「未知の事実」「研究目的」の4部構成になっています。
- Methods: 研究の調理方法を示す、最も重要なセクションです。「研究デザイン」「データソース（対象者）」「暴露・アウトカム・共変量の定義」「統計解析」で構成されます。特に統計解析は、結果を意図的に操作することも可能なため、手法のコンセプトを理解し、研究目的に合っているか、公平な比較ができているかを批判的に読む必要があります。
- Results: 解析によって得られた結果を客観的に記述した部分です。

- **Discussion**: 結果を解釈し、その意義を論じる部分です。「結果の要約」「先行研究との比較」「結果が出た理由の考察」「研究の限界(Limitation)」から成ります。最も重要なのは「考察」で、その結果に生物学的・臨床的に妥当な説明がなされているかを確認します。なお、データから言える範囲を超えた「夢や妄想」のような、誇大な主張がされていないかを見極めることが重要です。
- **Conclusion**: 研究結果が、臨床現場や医療政策にどのような影響を与えるか(Implication)を述べます。社会的な意義が明確でない研究は、価値が低い可能性があります。

論文読解を助けるヒント

廣瀬さんからは、論文読解を助ける実践的なヒントもいくつかご紹介いただきました。

- **ツールの活用**：iPad mini や Apple Pencil、文献管理ソフト（Paperpile 推奨）を使うことで、論文を読むハードルを下げることができます。
- **量をこなす**：最初は分からなくても、とにかく多くの論文に触れることで、パターンが見えてきます。
- **専門家との連携**：優秀な統計家や疫学の専門家を相談相手に持つことが、研究の質と安全性を守る上で重要です。

【大越の感想】

今回の講座で特に印象に残ったのは、「タイトルに研究デザインが凝縮されている点」と、「Discussion 部分でデータから言える範囲を超えた誇大な主張がないかを見極めるべき」という点でした。これは、私自身のこれまでの論文執筆において、これらの点が十分にできていなかったと感じたためです。論文の読み方を学ぶことは、そのまま書き方を学ぶことにつながると改めて実感しました。今回の学びを、現在執筆中の論文に活かしていきたいと思います。

編集担当：松永理絵、大越香江